

山口県高P連 会報

平成26年11月4日発行

14号

発行 山口県公立高等学校PTA連合会
〒753-0072 山口市大手町2-18 山口県教育会館2F
TEL 083-923-4761 FAX 083-923-4785
http://www3.ocn.ne.jp/~kopren E-mail ymgt.koup@etude.ocn.ne.jp

ごあいさつ

山口県公立高等学校PTA連合会

会長 寺本 隆 宏

晩秋の薫りと紅葉の大団円に心が弾む、そんな季節になってまいりました。今年6月の総会において皆様のご承認を得て、会長を仰せつかっております。よろしくお願ひします。

昨年度、山口県として初めて全国大会開催を引き受け、無事盛会裏に終了できたのは記憶に新しく、「夢から志へ」のテーマは広く全国のPTA会員の皆様に発信されたところです。今年8月に開催された福井



大会では、昨年度の山口大会開催に対し、山口県高P連と多々良実行委員長が全国表彰を授与されました。山口県高P連全会員の皆様の力の結集であったことを改めて認識させられました。福井大会会場では、多々良顧問と申し合わせ「志」の文字の入ったポロシャツを着て歩いていると、「山口大会、昨年はお世話になりました!」と、あちこちから声をかけられたいへん嬉しい思いでした。

さて、今年はその「夢から志へ」一歩踏み出していききたいと考えています。すべての高校生が夢を抱き、志をもつことができるよう、PTAの立場から考えられることサポートできることについて、具体的な取り組みを考えていきたいと思っています。

総会では、NPO法人カタリ場の村亮氏に「高校生の心に火を灯す」と題し講演をお願いしました。カタリ場では、大学生が自身の高校時代や大学生活について、失敗談や成功談を踏まえて、高校生にその思いを直接語りかけていき、高校生からの言葉にもしっかりと耳を傾け、向き合う場です。カタリ場の出会いの中で、年齢の近い少し先輩のことばや熱意に高校生たちは心を揺り動かされていきます。今年度は山口県でも山口中央高校で初めての開催をしております。

また、高校を取り巻く環境について、少子化の影響や新たな社会問題に対し

て、高校のあり方の検討や諸課題への迅速な対応を迫られています。山口県では平成29年度より学区制が取り払われ校区の制限がなくなることとなります。さらに、10年後を見通し高校の将来構想を立てることとしています。この協議会には県高P連を代表して委員として関わらせていただいております。PTAの立場から意見を述べてまいります。その他、8月の研究討議でもテーマとなったスマートフォンの利用についても大きな課題となっています。高校生をめぐるさまざまな課題に、皆様のご協力によって更に充実した取り組みをしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

平成27年度 第57回中国・四国地区高P連大会 岡山大会

日時：平成27年7月10日(金)
会場：岡山市民会館（岡山市北区丸の内）

平成27年度 第65回全国高等学校PTA連合会大会 岩手大会

日時：平成27年8月20日(木)、21日(金)
主会場：岩手産業文化センター（滝沢市）
副会場：盛岡市アイスアリーナ（盛岡市）
主会場、副会場含む7会場

第56回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会高知大会報告

県連副会長 白木 美和

第56回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会高知大会が、平成26年7月11日、高知市の高知県民文化ホールにおいて、「緑の山から青い海へ」夢をつないで未来へ」を大会テーマとして盛大に開催されました。

大型の台風の手想進路がちょうど高知へ向かっていったことで開催が心配されましたが、台風は高知のはるか南海上を通過、台風一過の青空が広がるまでの開催となりました。山口県からは、台風の影響を心配してキャンセルも相次ぎましたが、75名で参加をしてきました。



開会行事では、尾崎正直高知県知事や岡崎誠也高知市長からのご挨拶があり、祝辞の中で少子高齢化ストップに向けた高校と地域との取り組みについても紹介がありました。

中村さんは、講演の締めくくりに『球道は人道なり』『徳をつむ』と書かれた色紙を披露され、子ども達には「挨拶と返事、後始末をしつかりとやれ」と必ず言ってきたと人としての姿勢についても語られました。

昼食のお弁当は、小学生や中学生が加わって誕生したという土佐っ子駅弁が登場しました。小・中学生が地産地消の食材を求めて高知を調査研究して商品開発したものでした。世代間をこえて誕生した郷土愛のお弁当は大変美味しかったです。



研究討議では、島根県立松江北高等学校PTAが「家庭教育とPTA」歴史と伝統はぐくむキャリア教育」と題して発表、続いて、山口県から登壇した山口県立防府商工高等学校PTAの取組についてPTA会長の財満謙太郎氏が報告をされました。テーマは、特色ある学校づくりを通しての生徒指導というものでした。高校生が地元観光協会と一緒に地域活性化にむけて協働で取組を行っているというもの。高校の文化祭も「天神まちかどフェスタ」として地元商店街で行い、商品の販売やイベント企画などを通じて、ビジネスの実践の場にもなっているとのことでした。

財満氏は、報告の中で、「子供たちの活動は学校の中にとどまらず、私たちの街は私たち自身が創造してゆく」という意識のもとで行われていると伝えられました。スクリーンに映し出される高校生や街の皆さんのはつらつとした明るい表情が印象的で、高校生の発想や活動がまさに街を元気にしていることがよくわかりました。

続いて、高知県立嶺北高等学校が「高校再編とPTA」プロジェクト41地域振興の要は健全な高校存続」と題して発表が行われました。今、日本中が抱える少子化という課題。嶺北高校の

入学者も減り、高校存続の危機となった時、中学高校、PTA、議会や地域も一緒になつて、高校存続を地域振興の要として活動したという報告でした。



中学との連携や高校魅力化プロジェクト、地域観光の商品開発やスポーツ大会の運営など積極的な高校生の姿に、減少傾向だった入学者が目標の41名を上回る勢いになったという素晴らしい取組でした。

研究協議の後は閉会行事となり、来年の中国・四国地区高等学校PTA連合会大会の開催県である岡山県高小川浩基会長からご挨拶があり閉会となりました。

この度の高知大会は多くの高校生が地域で活躍する姿がありました。高知大会に参加された多くの方にも元気が届いたのではないのでしょうか。

最後に、台風接近の最中でも準備を進めて下さった高知の皆様深く感謝致します。

第64回全国高等学校PTA連合会大会福井大会報告

県連副会長 上村 真二

第64回全国

高等学校PTA
A連合会大会

福井大会が、

平成26年8月

21日から23日

の3日間、越

前市のサン

ドーム福井を

主会場に1万

人近くが出席し開催されました。



開会式には、下村博文文科科学大臣、西村一誠福井県知事をはじめ多くのご来賓が出席されました。

福井大会実行委員長から、昨年は、山口県が開催県で「『夢から志へ』」たくましく生きるチカラを育むために、今、私たちができること」のテーマの下、子どもたちの「志」を育むために、家庭・学校・地域が連携・協働し、



どのように社会総がかりで子どもたちを支え、応援できるかについて、熱心に研究討議がなされた。今年、これを基にメインテーマに

「教育と考福」を、サブテーマに「未来に引き継ぐ 知と恵み」を掲げたとの紹介がありました。

来賓祝辞で下村文科科学大臣は、次の4点につき話をされましたので、項目のみとなりますが紹介します。

- 1 教育委員会制度の改革 委員長と教育長の一本化等
- 2 大学入試試験の改革 暗記・記憶力より創造・企画力を問うものへ
- 3 高校授業料無償化
- 4 グローバル人材の育成(注)

開会式後の基調講演は、脳科学者 茂木健一郎氏が「今求められる考福脳」脳科学者からの提案」をテーマとし、分かりやすく、時には冗談を入れながら講演がありました。

氏によれば、幸福とは、自分の個性を受け入れて、それを伸ばすこと。欠点だと思われるすぐ近くに長所がある。とのことでした。

英国実業家 リチャード・ブランソン(ヴァージングループ(音楽ショップ ヴァージン・メガストア、航空会社 ヴァージン・アトランティック航空)の創業者)は、失読症だったそうです。優等生は全て一人でやってしまおうとする。友達と協力する必要はない。他方、劣等生(自分)は適材適所で対応する。彼はよりよい人間関係を構築す

るには、天賦の才があったとのことでした。彼は事業の成功により、エリザベス女王2世から「ナイト」の称号を賜ります。

自分が出来ないことができたとき、神経伝達物質ドーパミンにより脳は学ばそうです。ドーパミンとは簡単に言えば、やる気を出すように指示する物質です。人間の脳は一生学び続けることができるそうです。

人間は幸福について考えるときに、そこには「フォーカシング・イリュージョン」と呼ばれる傾向があるそうです。例えば、学歴、金銭、仕事などがないと幸福になれない。だから自分は幸福になれない。そのような特定のポイントに、自分が幸福になれるかどうかの分岐点があると信じてしまうことだと言われました。

これから逃れる方法は、「自分幸せだと思うこと。」だそうです。

メーテルリンクの青い鳥の物語は、幸福の象徴である青い鳥を探しに行くが、結局のと



ころ、自分たちに最も身近なところにある鳥籠のなかにあったとありました。が、同じことだと言われました。

私たちはとかく子どもたちに、「○ ○しない、△△になってしまふよ」的な発言をしてしまいますが、子ども一人ひとりの個性を把握し、それを伸ばす、ドーパミンを出させるような様々な体験をさせることが必要なのではないでしょうか。そのことが、「未来に引き継ぐ知と恵み」となると思います。

日本の子どもたちは諸外国と比較すると、自己肯定感が低いとのこと。これは、子どもたちの問題ではなく、私たち親の姿勢の問題だとも感じました。

さて、午後からの分科会ですが、私は福井市のハーモニーホールふくいに会場を移し、第1分科会「学校教育とPTA」真の信頼構築への啓発」に出席しました。

山形県立置賜農業高等学校PTAは、「置農生とPTA連携の地域活性化を目指して」と題して、マナーアップ運動、置農祭、保護者関連企業との連携についての発表を、三重県立松阪高等学校PTAは、「学校教育とPTA 子どもの進路希望を叶えるために行うPTA行事」と題して、PTA総

会での各界の著名人の講演会、大学見学を目的とした、PTA 研修会の開催について発表を、兵庫県立太子高等学校 PTA は、「共に育つ PTC A ふるさと太子から元気を発信」と題して、聖徳太子ゆかりの地である太子町とタイアップした取組について発表を、指宿市立指宿商業高等学校 PTA は、「株式会社指宿を支える保護者たち PTA は子どもたちの応援団！」と題して、生徒が株主となり、ビジネス教育の実践として会社の運営に携わること、保護者の父親で組織する「おやじ会」、PTA 会員の OB・OG で組織する「そろまめん隊」の活動について、それぞれ発表がなされました。

そのなかで一番印象に残ったのは、最後にコメントターである福井大学松木健一教授が各 PTA の活動のキーワードは、「PTA の活動が子どもの明日を創る。生徒たちの地域活動が明日の日本を創る。」であるでした。4 高校とも取組内容は異なりますが、この思いを根底に置き活動されていることを感じられました。

子どもたちを取り巻く環境は、私たちが過ごしてきた時代と大きく変わりました。しかし、親から子どもへの思いは変わってはいません。多くの方々が、子どもたちの未来のために、懸命に活動されていることがわかりました。

日頃アドレナリンの放出が多い私で

すが、今後はドーパミンが放出されるような生活に心がけ、今後の PTA 活動に生かしたいと思っております。

全国から福井大会に参加された多くの皆さま、お世話になりました。

(注) YouTube で AKB48 留学と入力検索すると、トビタテ！フオリーチンクッキ留学 JAPAN バージョンとして映像が出来ます。グローバル人材育成推進事業採択大学として山口県からは、山口大学、山口県立大学が参加しており、下村大臣も出演されています。ぜひ一度ご覧あれ。

平成27年度 主要行事予定

月	日	行 事
5	29	第 1 回常任委員会 (やまぐちリフレッシュパーク)
6	5	山口県高 P 連総会 (ホテル ニュータナカ)
7	10	第 57 回中国・四国地区高 P 連大会岡山大会
	22	第 2 回常任委員会 (やまぐちリフレッシュパーク)
8	19～21	第 65 回全国高等学校 PTA 連合会大会盛岡大会
9	11	第 3 回常任委員会 (やまぐちリフレッシュパーク)
H28・2	19	第 4 回常任委員会 (やまぐちリフレッシュパーク)

◆広島県高 P 連へ義援金◆

広島県では平成 26 年 8 月 19 日からの大雨災害により、39 名もの生徒さんが被災されました。昨年、本県も同様な災害に見舞われ、沖縄県高 P 連から義援金を送られ、該当する学校には見舞金としてご家庭にお渡しいただいたことは記憶に新しいところです。このたび山口県高 P 連では寺本隆宏会長が広島県高 P 連 中津久美子会長へ 9 月 20 日の全国高 P 連会長・事務局長研修会で義援金をお渡ししました。被災された生徒のみなさんのお見舞いと、お亡くなりになった生徒さんのご冥福を心よりお祈りします。ご報告をさせていただきます。



【写真 左 寺本会長、右 中津広島県高 P 連会長】

祝 表 彰

第 64 回全国大会 (福井大会) で次の団体・個人が表彰されました。おめでとうございます。

◇全国高等学校 PTA 連合会会長表彰

(団体の部)

山口県立西京高等学校 PTA

(役員の部)

全国高等学校 PTA 連合会常務理事

多々良 健 司 氏

(山口県公立高等学校 PTA 連合会前会長)

(特別感謝状)

第 63 回全国大会開催地実行委員長

多々良 健 司 氏

なお、山口県公立高等学校 PTA 連合会も第 63 回全国大会開催地として特別感謝状をいただきました。



第67回山口県高P連総会

6月6日(金) ホテル松政で開催されました。

昨年度まで実施していた総会での地区別研究協議会は全国大会の成果を次につなげるということで、研究協議会として8月1日(金)に新たな形態で実施することとし、併せて全国体会のテーマであった「夢から志へ」の次の新たに展開として、NPO法人カタリバ統括ディレクターの今村亮氏に「高校生の心に火を灯す」と題して事例発表をしていただきました。今回、山口県立山口中央高等学校が1年生を対象に9月16日(火)に開催しました。

なお、総会では次の議案が可決承認されました。

- 平成25年度第63回全国高等学校PTA連合会大会山口大会最終事業報告並びに最終収支決算
- 平成25年度事業報告並びに収支決算
- 平成26年度事業計画並びに予算案
- 平成25年度見舞金収支決算
- 平成26年度見舞金収支予算案
- 平成25年度研究協議基金収支決算
- 平成26年度研究協議基金収支予算案

総会では次の方が教育長表彰・会長表彰を受賞されました。(敬称略)

佐村 静昭(岩国工)
倉田 哲一(高森)
多々良 健司(西京)
江田 方志(宇部商)
河口 隆司(小野田工)



会長表彰受賞者
大久保 典子(下関中等)
末永 明典(大津緑洋)
荒瀬 靖子(萩商工)

的場 敏(岩国総合)
宮本 裕(柳井)
山崎 隆司(柳井商工)
宗廣 宜之(熊毛南)
扣毅 薫(田布施農工)
加藤 正道(光)
水野 芳雄(光丘)
林 真理子(熊毛北)
中津江 均(下松工・定時制)
原田 康宏(徳山)

山口県高P連組織の概要

- 【名称】山口県公立高等学校PTA連合会
【構成】山口県内の公立高等学校PTAをもって組織
全日制-県立52校、中高一貫校1校、市立1校、分校6校の計60校
定時制-県立14校(併設含む)、市立1校の計15校
【目的】各単位PTA相互の連絡提携を図り、相協力して高等学校PTAの発展と教育の振興を図る。
【主な事業】1 各単位PTA間の連絡提携(委員会、総会、地区別研究・連絡協議会等)
2 高校教育の振興に関する調査研究(全高P連と連携アンケート調査等)
3 文教政策への建議と意見の公表(全国、中・四国大会での協議、要望書等)
4 教育、行政機関・教育諸団体との連携(諸大会参加、事業への協力・後援等)
【機関】総会(年1回、6月開催)
常任委員会(年5回、6・7・9・2・6月)
【役員】平成26年度
顧問 多々良 健司(西京高校PTA顧問) 新任
会長 寺本 隆宏(岩国高校PTA会長) 新任
副会長 白木 美和(西京高校PTA会長) 新任
上村 真一(大津緑洋高校PTA会長) 新任
監事 西村 佳子(山口中央高校校長) 留任
森岡 一雄(厚狭高校PTA会長) 留任
室 道義(下関商業高校PTA会長) 留任
幹事 田熊 直樹(山口高教頭) 新任
池田 雅一(山口中央高事務長) 新任
常任委員
岩国地区PTA会長 國清 篤(岩国商業) 新任
校長 松根 健治(岩国) 新任
柳井地区PTA会長 楠原 慎太郎(柳井) 新任
校長 倉田 伸治(熊毛北) 新任
周南地区PTA会長 藤井 美保子(南陽工業) 新任
PTA会長 横田 範幸(徳山) 新任
校長 藤澤 正信(防府) 新任
山防地区PTA会長 大堀 泰一(防府) 新任
校長 宮地 政利(宇部中央) 新任
長南地区PTA会長 石田 公男(青嶺・美祢青嶺) 新任
PTA会長 池田 幸浩(宇部) 新任
校長 岩本 龍治(長府) 新任
下関地区PTA会長 片岡 直之(長府) 新任
PTA会長 安岡 克昌(下関中央工) 新任
校長 田坂 祐治(下関西) 新任
長北地区PTA会長 金子 聖司(奈古) 新任
校長 中村 充範(萩) 新任
【事務局】山口市大手町2番18号 山口県教育会館2F
(TEL: 083-923-4761, FAX: 083-923-4785)
事務局長 久芳 善人 事務職員 清水 典子

稲田 美穂子(徳山北)
吉村 弘之(防府)
國信 耕太郎(防府西)
末永 久大(山口)
金本 正義(山口・定時制)
杉本 奈津江(山口・徳佐)
藤山 ひとみ(山口農)
大谷 弘(宇部)
安永 一男(青嶺・美祢青嶺)
吉岡 和巳(西市)
足立 英司(豊浦)
國司 久(長府)
花田 義一(下関南)
坂元 中田 陽一(下関中等)
濱岡 義一(下関工・定時制)
村岡 歳生(響)
木下 泰造(大津緑洋・日置)



大変お疲れ様でした。
なお、総会後の会長会議、これに続く教育懇談会では昨年同様多くの会員の皆さまに出席をいただき会員同士親しく意見交換を深めることができました。

平成26年度

研究討議会 研修報告

日 時：8月1日(金)

13:00~17:00

場 所：山口県健康づくりセンター
多目的ホール

参加者：112名

(小中学校県P連10名含む)

主 管：山口県立大津緑洋高等学校PTA

これまで、一堂に会しての研修として、地区別研究協議会(3地区(東部、中部、西部))を山口県高P連総会の中で開催してきました。今回から研究討議会研修とし、全国大会の成果を踏まえ、これからのPTA活動に活かしていくということで、別に日をとっての開催としました。また、研究討議会研修は2部構成とし、第1部を講演、第2部では参加者全員が意見を積極的に出し合い互いに共有するというところで「熟議」を進化させた「ワールド・カフェ」方式で実施し、県内全域からの参加としました。内容は、

第1部 講演

「イマドキの子どもの現状と課題」

— 私たち大人にできることは何? —

WYSH教育の視点

講師 京都大学大学院医学研究

科社会疫学分野

准教授 木原 雅子氏

先生は京都大学で教鞭ととるかたわら、多方面にわたり活躍され、全国高等学校PTA連合会健全育成委員会の協力委員長として、昨年度の全国高等学校PTA連合会大会山口大会では、「青少年の健全育成に係わる研究発表」やる気のない子とある子の違い」と題しての発表は記憶に新しいところです。

青少年に対する膨大な調査結果(こ



れまでの対象者数、30万人)を基に調査分析され、こどもの現状に応じた効果的な教育の開発を行なわれています。その中で、現状のこどもの抱える様々な問題(性の問題、いじめ、自傷行為、万引き等)の背後に共通して見られる現象として人間関係の希薄さを指摘される一方、「豊かさ」や「便利さ」と引き換えに、現在、社会から失われつつある「人間関係」の回復を教育の根底にすることを提唱され、全国展開で各種予防教育の開発普及に奔走されています。

今回は、これまでの調査を踏まえ、最新の高校生の意識・生活調査から見

えてきたものを中心に講演されました。

【講演内容】

高校2年生・2013年全国高校生生活意識調査(全国高等学校PTA連合会)より

- 生徒の現状
- バーチャルな人間関係(いつもつながっていたい)
- バーチャル没りの背景
- 現実(リアル)の人間関係

■現代の子どもの現状と社会

○WYSH教育の概要(Well-Being of Youth in Social Happiness)

○WYSH教育の基本姿勢

そして、「リアルなつながりの大切さ」「バーチャルなつながりの危うさ」を指摘され、現在子どもたちに「スマホ」の取扱い方が大きく影響しているということで、第2部への展開となりました。

第2部 「熟議」

(ワールド・カフェ方式)

テーマ1「スマホの使い方で気になることは何ですか?」

テーマ2「上手な使い方をするには、どうしたらいいと思いますか?」

を設定し、ライフスタイル協同組合の船崎美智子代表、久保田啓子両氏の主導進行のもと、ファシリテーター役は主管の大津緑洋高校PTAのみなさんにご苦労いただきました。

〈第1回目討論会〉

○テーマ1…「スマホの使い方で気になることは何か？」で多く出た問題点・課題点

*子どもがよく○○の友だちと言っているけど、スマホだけの友だちとは何だろう。知らない人と友人になる。誰と情報交換しているのか。



*依存症。ダラダラとやってしまう。睡眠不足、生活が不規則。遅くまで使って勉強は大丈夫？

*便利だけど怖いことも多い。

*ラインでのグループはずし。いじめ、悪口。

*ながら歩きでケガをする。事故。

*話しかけているのにスマホをいじりながら返事をする。無言になる。人の話が耳に入らない。

*人間関係をこわさない、なくさないように使う。

*いつも手元に置いておかないと不安な人がいること。

*フィルターって信用できないなあ。料金っていったいどうなっているの？使い方を間違わないよう。

*スマホによる犯罪にまきこまれないようにするにはどうしたらいいか？

*友だちからのLINEが止まらない。い。

*何をしているのかわからない。どんな情報を得ているのか。

〈第2回目討論会〉

○テーマ2…「上手な使い方をするにはどうしたらよいと思うか？」で多く出た意見

*使用について家庭でルールづくり。できる目標を決めさせ、自分で守り、管理させる。

家族で使用してはいけない場所、使わない時間帯をつくる。早いうち

からスマホ教育。

*学校・家庭で使用ルールの共有。友だち同士でもルールづくり。

*名義は親、パスワードは親が管理、ロックはかけさせない。

*スマホの機能について親も知っておく。

*自己責任。起こりうるリスクをハッキリと示す。発信したことは取り消せないことを知る。

*選択が人生を変えることを伝える。時間の使い方では決まる。

*どんな高校時代を過ごしたいのか共に考える。熱中できること、目標があれば良いつきあい方もできる。

*サービス、利用料金の仕組みを考える。

〈グループ発表および感想〉

*全グループ共通して出てきたものは「使用時のルールを決める」

〈講師講評〉

子どものスマホ使用の問題については、確かに各家庭や学校で「ルールづくり」をしていかなければならないが、そこには『お互いの信頼関係』があってこそであり、その『信頼関係』はリアルなつながりがその裏付けとして必要」と締めくくられました。

〈研究討議研修参加者の感想〉

・木原先生の研究がピッタリ我が子に



合っていて、やはり、と思った。WYSH教育の話聞いて、家庭が子どもにとって心地よい居場所になるようにしていきたい。

・様々な意見を共有でき、子どもたちにきちんと向き合う時間を持つ必要を感じた。

・現代社会でPC、スマホは欠かせないアイテムなので親子でルールを決めて正しく便利に使うと良い。

・家に戻って、もう一度家族でスマートフォンの使い方を話してみようと思う。ルールの再設定！

・スマホなどの問題は、特に学校と保護者との連携が大切だと思った。スマホだけではなく、自立／自律でき

ファシリテーター研修会実施

日 時 7月15日(火) 18:00~20:00

場 所 山口県立大津緑洋高等学校大津校舎

参加者 大津緑洋高校PTA 15名参加

県高P連主催の研究討議会(8月1日〔金〕山口県健康づくりセンターで開催)に向けての研修会で、これまでの「熟議」を進化させた「ワールド・カフェ」方式でのファシリテーター研修となりました。指導は今回の研究討議会「熟議」を進行されたライフスタイル協同組合代表の船崎美智子さん、理事の久保田啓子さんをお願いしました。15名の参加者のうち約半数が「熟議」のファシリ

テーター経験者でした。本番の研究討議会では参加者双方向の「意見発表」「意見の共有」及び「場の進め方」等に研修の成果がしっかり発揮されていました。



ファシリテーター研修風景

る子どもを育てていけるよう努めた
い。
・親同士の新しい出会い、共通の問題、
悩みを共有し、良い意見交換、解決
へと深く話し合うことができて大変
良かった。今までにない体験が出来
たことに感謝。
・活発な活動が出来た。ファシリテー

ターの方に感謝したい。
・先生や親が子どもたちのことをどれ
だけ考えているかを子どもたちに知
らしめるためにもこのような会に子
どもたちを参加させる必要がある。
・子どもが成長するにつれ、親の心配
ごとが大きくなるのだなあとしみじ
み感じた。(中学生の親より)

平成26年度小中高PTA・校長会連絡協議会開催

この協議会は小・中・高の連携協力
を図る趣旨から企画され、今回は高P
連が当番でした。7月23日(水)の高
P連第2回常任委員会のもと、やまぐ
ちリフレッシュパーク(多目的室)で、
教育庁社会教育・文化財課、小中高校
長会長、山口県PTA連合会役員及山
口県公立高等学校PTA連合会役員の
13名が出席し開催しました。

テーマ「小中高の連携」を中心に話
されました。

幼保と小学校低学年の接続部分、小
学校高学年と中学校の接続部分、中
学校と高校の接続部分について問題が指
摘された。

小学校の場合、児童生徒新しい環境
での学校生活に馴染む方策(プログラ
ムの一元化、アプローチの仕方スター
ト時期)を学校側は考えている。保護
者もどうしてよいかわからない家庭で
の準備について、学校側も保護者への
働きかけが必要である。

小学生と中学生のつながり(連携)
も必要として、ある地域では、地域で
育てる、地域の教育力の向上、地域教
育ネット推進の一環として中学校生徒
による小学生への支援・指導態勢を学
校側も協力し進めている例を示され
た。

高P連側からは、8月1日(金)開

催の研究討議会に県P連(小中学校P
TA)からも参加について小中PTA
間との連携の趣旨を説明した。

現在、子どもたちのケイタイ・スマー
トフォンの使用、特にラインの使用の
在り方について意見が交わされた。持
つな、持たせるなどという意見もあるが、
必要だから持たせて指導すれば良いと
いう意見もある。子どもたちにも問題
意識を持たせる必要がある。家庭・学
校・行政地域が果たす大人の役割観を
持つことも必要である。

これからも、小・中学校PTAと高
校PTAが連携を図る必要があると思
います。

ちなみに、8月1日開催しました山
口県高P連研究討議会には小・中学校
PTAからも出席してもらっています。



小中高PTA・校長会連絡協議会

演説報告

演題 「高校生の心に火を灯す」

学生による出張事業「カタリ場」の事例を通して

○日時 平成26年6月6日（金）
○会場 ホテル松政

○講演者 NPO法人カタリバ
(第67回山口県高P連総会)

カタリ場事業部

統括ディレクター

今村 亮氏



まずカタリ場とその他の特徴について、高校時代の進路選択で、生徒は初めて「どう生きるか」という決断をしなくてはならないとし、高校生向けのキャ

リア学習支援として、現在全国各地で活動し注目を集めています。特徴の一つは、大学生のボランティアスタッフを使って高校の授業に訪問し、生徒達に自分の体験談を語らせ、また生徒達と対話することによって、生徒達に自己理解を深め、将来に希望を抱いて欲しいという約120分のプログラムです。そして、カタリ場の活動については大学生にその案内役を任せていることです。この大学生は1〜3年前までは高校生であり、生徒達にとっては本最近まで同じような悩み・同じような生活を送っていた身近な存在であり、双方向で共感が得られやすい関係にあります。

今回の講演では、人間関係（位置関係）を説明するのに、漫画サザエさんの中に登場するカツオ君に焦点を当て説明しています。なかなか言うことを聞かない問題をしょっちゅう起こし叱られるカツオ君、そんな描かれ方をしている彼が、なぜか妙に素直に言うことを聞く存在として登場する人物、それは磯野家の隣に住んでいる伊佐坂（いささか）先生の娘ウキエさんです。一方、嫉・学習面でもいつも彼に説教する両親や先生。正論を吐く大人達にはかないません。カツオ君にとって彼ら

はなかなか相談しにくい存在。これを『縦の関係』としています。また、クラスメートとして登場してくる不動産屋の娘、花沢花子さんや「おーい磯野、野球しようぜ」の中島弘君が代表ですが、彼らは友達だけど、カツオ君は付き合えないの中で自分の考えをいつも直に打ち明けられないプライドをにじませます。真からの相談がなかなかできない存在。これを『横の関係』としています。これに対して、先ほどのウキエさんは少し年上だけど、あこがれと親近感の持てる人でもあり、素直に話が聞ける相談しやすい人という設定になっています。カツオ君から見た彼女との人間関係は『縦の関係』でもなく『横の関係』でもない関係で、カタリ場ではこの位置関係を『ナナメの関係』としています。

この『ナナメの関係』を使って高校生向けのキャリア学習支援を展開するのがカタリ場です。高校生というこの大事な時期、『縦の関係（親と子、先生と生徒、先輩と後輩）』『横の関係（友達同士）』だけでは、自分からなかなか本音が出せなかったり、語りあうことをためらったり、控えたり、と悶々とした生活を送ってしまうことになりました。だから『ナナメの関係』にある利害関係のない普通の大学生の体験談や語りをおして、その互いの語り合いの中から高校生は自分の思いを言葉にし、自ら語った思いだからこそ、そ

の思いに向かって自らの足で1歩踏み出すことになり「高校生の心に火を灯す」ことになる。

最後に、このたび山口県内で初めて、山口県立山口中央高等学校が9月16日（火）中央高校体育館で1年生（200名）を対象にカタリ場を実施しています。ボランティアの大学生は、山口大学、山口県立大学を中心に北九州大学他からも応援があり総勢35名。山口県高P連も、今回このようなカタリバ大学生の育成が必要ということで、育成研修に支援等で協力しました。

なお、「山口カタリバの会」責任者は、山口大学教育学部3回生 村本 涼君でした。彼は、山口県立岩国商業高等学校の卒業生です。村本君をはじめ学生ボランティアによる2泊3日の「カタリ場」研修、普通の大学生ですが、いつの間にかお互い切磋琢磨が始まっており、120分の授業のために若いエネルギーが溢れ始め盛り上がりつつ、そして最後にはエネルギーに満ちたチームにまとまっていく、ものすごいものでした。特に、自分の体験談を高校生に語る大学生を6人に絞り込んで行く過程、また生徒達に寄り添っていろいろ話を聞き出しながら相談に乗っていく役割を担う学生の研修は圧巻でした。お疲れ様でした。ありがとうございました。

学校紹介

山口県立防府高等学校 PTA 会長 (本校) 佐 甲 裕 史
(佐波分校) 松 原 和 正

はじめに、防府についてお話しします。まず、地名の由来ですが、奈良・平安時代に国の役所がこの地域に置かれ、周防府中、周防国府と呼ばれていたことから防府という地名になったようです。また、菅原道真公を祭る防府天満宮を中心に栄えてきた地域でもあります。あの清少納言も幼少の頃、防府の地で過ごしたとも言われています。種田山頭火も防府高校の前身である周陽学舎の卒業生です。来年の大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公である、吉田松陰先生の妹の杉文も晩年を防府で過ごし、御主人の群馬県初代県令掛取素彦と一緒に、防府高校隣接の大楽寺に眠っています。大楽寺は、あの夏目雅子さんのお墓があることでも有名です。防府という地域は、古来、政治や文化の香りのする地域なのです。その影響なのでしょいか、防府高校の卒業生には、文芸やマスコミの世界で活躍されている方が多い気がします。

佐波分校が 完全分校化

さて、防府高等学校は、本校が普通科・衛生看護科・衛生看護専攻科を設置し、全校生徒数 913 名、

佐波分校は普通科 58 名です。分校は今年度から完全分校化となり、防府高等学校の校史に新たな歴史が刻まれました。防府高等学校佐波分校は、昭和 20 年度に山口県立佐波農林学校として創立し、以後、佐波農業高等学校、佐波高等学校と変遷しながら、平成 24 年度に山口県立防府高等学校佐波分校が開校、今年度春に、全学年生徒が防府高等学校佐波分校生徒となりました。これまで 69 年間の歴史の中で、7400 名を超える卒業生を社会に送り出し、諸先輩方は各分野で活躍されておられます。同窓会組織は、平成 26 年度卒業生から本校と同じ九華会となります。分校訓の「親和協力」は、自分を尊重し、他者との共生を図りながら相親しみ、一つの目標に向けて協力することを意味しています。これからのグローバル社会にも通じる精神であります。学校は、地域に役場や郵便局、病院などがあるように地域に根ざし、地域と共生し、地域の中で育てられていくものです。ぜひとも地域の方々に愛される佐波分校であって欲しいと思います。

めざす学校像

本校のめざす学校像は、「文武両道を貫く地域の伝統校として、未来を担う人材を育成する学校」です。文武の文は勉学です。授業は 45 分 7 限授業です。50 分 6 限授業よりも 1 日に 15 分授業時間が長くなります。文武の武は、体験活動すべてです。高校の三年間で勉学以外に何をがんばるかが問われています。高校三年間でいろいろなことにチャレンジしてほしいと思っています。

す。部活動であり、学校行事、生徒会活動、ボランティア活動等です。文武両道のねらいは二つです。一つは、中学までの自分にとらわれずに自分の可能性を再発見してほしいということです。サッカーの長友佑都選手は、ヨーロッパのクラブチームで活躍していますが、「インテルで技術が身に付いたのではない。眠っていた自分の才能に気がついた」と言っています。才能と遭遇する場面が必要なのです。その場面はチャレンジすることによって生まれると思っています。

二つめは、豊かな心の育成です。チャレンジを通して達成感、有存在感、満足感等を経験し、感動する心、他人を思いやる心などが培われるのです。自律した人間というのは、自分の中に行動規範をもっています。善悪の判断基準です。豊かな心によって形成された質の高い判断基準をもってほしいと思います。

部活動

インターハイでは、登山部女子が出場し、見事、第八位となりました。本当によく頑張りました。他にも弦楽部と囲碁将棋部が全国高校総文に出場しました。佐波分校では、ボクシング個人でインターハイに出場しました。山口県のインターハイ予選では、各競技の男女を合わせた総合成績の教育長杯で、本校が第六位となりました。まさに文武両道を掲げる防府高校としましては、面目躍如たるものがあります。

PTAとして

私たちが高校生だった昭和 50 年代前

半はオイルショックの影響でマイナス成長を記録、日本経済は不況へまっしぐらの時代でした。どんな時代でもおれずに生き抜く生活力は、進路を決める際の「自分はどうやって生きていくか」という、しつかりとした動機や若い頃からの様々な経験が生み出してくれるものだと思います。昨年、山口市で開催された全国高等学校 PTA 連合会大会でもキャリア教育やコミュニケーションづくりが当てられ研究討論がされているように、子どもたちが混沌とした時代を生き抜いていくための教育のカギを握るのは私たち保護者であり PTA です。今後とも時代を生き抜いてきた先輩として、これからの日本を背負っていく子どもたちをしつかりと支援していきたいと思っています。



分校・校舎



本校・文化祭



分校・ボクシング部



本校・戴帽式

平成26年度 災害負傷状況

平成26年9月末日現在

種別件数

種 別	件数
野 球	10
サッカー・フットサル	9
バ ス ケ	12
柔 道	6
バ レ ー	3
ラ グ ビ ー	4
テ ニ ス	2
ホ ッ ケ ー	1
相 撲	1
陸 上	2
ハンドボール	4
そ の 他	10
計	64

学校管理下状況件数

発生時	件数
授 業	8
部 活	48
登 下 校	5
学 校 行 事	2
そ の 他	1
計	64

部位別件数

部位別	件数
骨折	21
脱臼	6
関節症	1
眼窩骨折	4
腱板不全断裂	1
アキレス腱断裂	1
半月板損傷	6
靱帯損傷	12
靱帯断裂	6
半月板断裂	3
ヘルニア	3
熱中症	1
胸腹部臓器の障害	1
その他	16
計	82



傷病見舞金額別

月 別	件数	合計額
¥10,000	10	¥100,000
¥20,000	1	¥20,000
¥30,000	2	¥60,000
¥40,000	5	¥200,000
¥50,000	45	¥2,250,000
計	63	¥2,630,000

(重複しています。)



障害見舞金

合計額	件数
¥100,000	1

各地区別連絡協議会開催日

7 主管校 長北地区 (7月25日) 奈古高等学校	6 主管校 下関地区 (7月26日) 長府高等学校、 下関中央工業高等学校	5 主管校 長南地区 (7月4日) 青嶺・美祢青陵高等学校	4 主管校 山防地区 (7月5日) 防府西高等学校	3 主管校 周南地区 (7月18日) 熊毛北高等学校	2 主管校 柳井地区 (8月5日) 柳井南高等学校	1 主管校 岩国地区 (7月4日) 岩国商業高等学校
---------------------------------	--	-------------------------------------	---------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	----------------------------------

県教育長へ要望書提出について

地区別連絡協議会等から要望事項として、あらためて3件ほど提出がありました。

1. 部活動の充実活性化のために
2. 学校の施設設備
3. 生徒通学時の交通手段確保について

昨年度の要望事項と併せて要望内容も再検討し、寺本会長から県教育委員会の浅原教育長に「平成27年度予算に対する要望書」として手渡します。

全高P連賠償責任保障制度

☆ 掛金

生徒一人当たり 300円

見舞金給付事業

☆ 傷病見舞金

補償期間 4月1日～翌3月31日

見舞金負担金 全日 300円

定時 150円

被保険者

*生徒(日本スポーツ振興センター
の決定に基づき給付)

見舞金 (最高5万円)

香料 3万円

*保護者(PTA活動中のみ)

入院見舞金 最高3万円

香料 3万円

☆ 障害見舞金 10万円

☆ 死亡見舞金 10万円

2014年4月現在の内容です。

任意加入

山口県公立高等学校PTA連合会 高校生総合保障制度

こども総合保険・
自転車総合保険

大切なお子さまをさまざまな危険からお守りします。

- 学校内外、土・日全てを含む1年365日24時間補償。(学校管理下動産補償を除く)
個人の安全管理のための総合保障制度です。
- 自転車事故でのケガの補償が、すべてのプランで充実しています。
またケガの治療費を実費で補償できるプランが好評です。
- 育英費用補償を増額して補償するオプションが好評です。
- 簡単支払特急便でスピーディなお支払い。ケガで保険金5万円以下なら
電話一本で、請求できます。
- 1回の加入手続きで高等学校卒業まで自動更新されます。



個人賠償 責任補償	育英費用 補償	ケガの医療 実費補償	ケガの 補償	学校管理下 動産補償	被害事故 補償	病気の補償
お子さまやそのご家族が、誤って他人にケガをさせてしまったり、他人の物を壊してしまったり、法律上の損害賠償責任を負った場合に補償します。	扶養者の方が事故が原因で、事故の日からその日を含めて180日以内に死亡又は所定の重度後遺障害を負った場合にお子さまの育英費用として一時金を補償します。	お子さまがケガをして医師の治療を受けた場合に実際に負担した治療費用、医師の指示による差額ベッド代や入院時の交通費などを補償します。(細菌性食中毒補償を含む。)	ケガで入院したり、通院した場合の日額補償、所定の手術を受けた場合の手術補償、後遺障害や万一の死亡補償まで幅広く補償します。(熱中症補償、細菌性食中毒補償を含む。)	学校の授業中、登下校中に、お子さま本人が携行している身の回り品が盗難にあたり、破損した場合に補償します。	お子さまが、ひき逃げ事故や誘拐等の犯罪行為により、死亡または所定の重度後遺障害状態になった場合に補償します。	・病氣死亡見舞金 ・疾病入院医療保険金 ・疾病入院療養一時金 ・疾病手術医療保険金 お子さまが補償開始後に発病した病気で1日を超えて入院した場合などに補償します。

※この保障制度のパンフレットは、毎年ご進級・新入学時に学校に配付されます。※具体的な補償内容は、プランごとに異なります。※詳しくはパンフレットをご覧ください。
※上記、補償内容については、主な場合を記載しています。具体的な内容については、下記、お問合せおよびご相談窓口へお問い合わせください。

お問合せおよび相談窓口

制度内容・加入手続き、事故についてのご相談、住所変更、転校など

土・日・祝日・年末年始を除く(月～金 午前9:30～午後5:30)

☎0120-714-855
☎0120-504-551

加入者サービス

●ハロー健康相談24

電話による健康・医療・ストレスに関するアドバイスをします。

●セカンドオピニオンアレンジサービス

お子さまの病状・症状にあった相談をお受けします。

●メンタルケアカウンセリングサービス

心の専門家による面談カウンセリングをご提供します。

※上記サービスは、補償期間(保険期間)中、AIU保険会社がディーベック株式会社に委託してご提供します。

山口県公立高等学校PTA連合会

〒753-0072 山口市大手町2-18 山口県教育会館内

TEL 083 (923) 4761 FAX 083 (923) 4785

制度引受保険会社

AIU損害保険株式会社

西日本地域事業本部 広島支店

〒730-0011 広島市中区基町11-10

合人社広島紙屋町ビル2階 TEL 082 (222) 4351

受付時間:午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

(取扱代理店) NOSCOインシュアランスサービス(株)

TEL 082 (228) 1222

受付時間:午前9:00～午後5:30(土・日・祝日・年末年始を除く)

この広告は制度商品の概要をご案内したものです。詳細は「お問合せおよび相談窓口」までお問い合わせください。

【承認番号 A-000452 有効期限 2015-03】

各校PTAの会員である

先生方のための補償制度

山口県公立高等学校PTA連合会 教員総合補償制度

主な補償内容(2014年4月現在の内容です。)

- ① 先生方の職務遂行に起因する法律上の損害賠償金などの補償(施設所有(管理)者賠償責任保険)
- ② 先生方の個人生活に起因する法律上の損害賠償金などの補償(普通傷害保険個人賠償責任補償特約)
- ③ 先生方のケガの24時間補償(普通傷害保険)

詳しくは下記取扱代理店

フリーダイヤル 0120-084-025

「教員総合補償制度係」までお問い合わせください。

制度引受
保険会社

AIU損害保険株式会社 西日本地域事業本部(広島支店)

〒730-0011 広島市中区基町11-10 合人社広島紙屋町ビル2階 TEL 082 (222) 4351

受付時間:午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く) URL: http://www.aiu.co.jp

取扱代理店

NOSCOインシュアランスサービス(株)

〒730-0013 広島市中区八丁堀14-10 TEL 0120-084-025

受付時間:午前9:00～午後5:00(土・日・祝日・年末年始を除く)

【承認番号 A-000451 (2015-03)】